

豪華スター 沖縄キラリ

レッドカーペットに人波

「島ぜんぶでおーきな祭 第7回沖縄国際映画祭」(同実行委員会主催)が25日、宜野湾市と那覇市を皮切りに開幕した。宜野湾市のトロピカルビーチでは恒例のレッドカーペットが行われ、映画に出演した俳優の宮川翔や山本美月、お笑い芸人ら580人が登場。詰めかけた大勢のファンのサインや握手に笑顔で応えた。



「マイアランド」の(右4人目から)品川ヒロシ監督、主演の宮川翔、共演の木村祐一、大橋ら

北谷町聴覚青年会によるエグザルトで、お祭り気分が盛り上がった午後2時。オープニングセレモニーの総会司会を務める今田耕司と木佐彩子がトップバッターで現れ、大歓声とともにレッドカーペットがスタートした。ガレッジセール、ウーマンラッシュアワーと次々に登場する人気芸人たちに、「こっち向いてー」「サインサイン」など、「会場はテンションが上がっている」と、リスムネタで人気上昇中の8・6秒バスコーカーには、多くの観客から「ちよっと待つてちよっと待つてお兄さん



オープニングセレモニーの司会を務めた今田耕司(左)と木佐彩子(右)



県内各地に続々と発足している応援団のメンバーも団旗を携えて登場



アイドル専門チャンネル「Kawaii an TV」を代表してNMB48も登場

多くの出演者と映画関係者を招いたオープニングセレモニーが25日午後、宜野湾市トロピカルビーチ内の特設ステージであった。「島ぜんぶでおーきな祭」と名称が変更となった理由を、今田耕司が「沖縄全体で」とも、もっと何となく「もっともっとラフクのお祭り」にしたいから」と紹介し、多くの観客から賛成の喝采を浴びた。

同映画祭実行委員長で吉本興業株式会社の大崎洋社長は「島ぜんぶでおーきなマイア」と大会を称して地元ネタを盛り込んで笑いを誘い、吉野伊佐男会長は「独自のエンタメを目指すお祭り。当初の予想をはるかに上回る規模になった」と感慨深げに語った。

また、地元応援団は主催場の宜野湾や那覇はもちろん、北は国頭から南は宮古、八重山まで23団体に増加。沖縄全体での盛り上げが感じさせた。

島全体に祭り熱 宜野湾でオープニングセレモニー

と」とコールが上がり、8・6秒バスコーカーのはまやねんと田中シングルは照れ笑いする場面も。

ひととき高い歓声があがったのは、アイドルグループ・NMB48と韓国ダンスグループ・BIBYのステージ。来ない理由が飛び交い、人気の高さがうかがえた。

芸能活動30周年の節目を迎える宮川翔は、主演映画「マイアランド」の品川ヒロシ監督、木村祐一、大橋(千鶴)と4体のソングビキに引連れて登場。観客に飛びかかるように、ソングビキをなだめながら、レッドカーペットを満面の笑みで練り歩いた。

その他、らぶらぶらぶらぶら、さいやま商店など地元・沖縄のタレントも注目集めた。ガレッジセールのゴリは、「会場には楽しいことばかり。来ない理由が豊富ではない」とおぼく、29日までの来場を呼び掛けた。



主演の三浦貴大(右)と共演の長原成樹(左)は本日、桜坂劇場で15時40分からの上映後に舞台挨拶に立つ

(麻生吉太郎)

「監督は映画マニアと聞いていいほど入れの強い人。音楽、タイトルが入り方、字体……こんなに個性を持つ上りになるなんて思っていなかった。京都の話なのにアジアの書物がする」。一方、「本人は役者道を極めるタイプらしく「作品が絵画だとしたら僕は絵の具であるべき。監督の要求した色に」と断言した。▼監督経験もある共演の長原成樹も「映画は監督のもんです。杉野監督は優しく、でも芯の強い人」と重ね、この映画のテーマでもある「愛」について尋ねると、「もう恋愛はええわ。それより女房より先に死にたい。それこそ永遠の愛だと思います」と締めくくった。

シーサーだより

▼特別招待作品の「マンガ肉と僕」は、第一回「گریエイターズ・ファクトリー」でプロデューサー・主演女優としてアランプリに輝いた杉野希妃の初監督作品だ。女性独自の目線によるタフーのない同世代感が生々しく描かれ、「男に抗う女性の思い」が脈動を打って展開されている。▼過食症から8年後、見違える美人に成長する主人公マちゃん(杉野希妃)の相手に三浦貴大。もはや山口百恵さんの息子というより日本映画界を奮闘して立つ男優に成長した。関々と女性関係に惹かれる青年ワタベを見事に演じている。

3作品の個性激突

クリエイターズ 本吉監督に栄冠

25日正午より、よしもと沖縄花月にて次代を担う才能を発掘する「クリエイターズ・フアクトリー」の優秀作品上映会および公開審査会が開催された。

上映されたのは、自作の中で10年間使い続けたSサイズの制服そのものをヒロインとした異色ド



最優秀賞に輝いた「傷人形」の本吉聡子監督に、中江裕司審査委員長がトロフィーを授与

キョメンタリー「君を連れて行く、いいよね。」(繁田健治監督)、日本のアイドルユニット「ズルースキルズ」に属しつつ、ピザの関係で台湾への帰郷を余儀なくされたアイ

ドル、シユアンが自身の心情を素直に吐露した「泡鳴日本夢(仮)」(深井

重ね合わせながら、今を生きる女性の感性を鋭く突いた本吉聡子監督「傷人形」の3作品。

上映後は審査員のみならず観客も参加しながら、どの作品が最優秀賞にふさわしいかを徹底討論。制服とアイドルと人形、いずれも力作揃いの中、場内は白熱したが、ついに本吉聡子監督にシーサー像が授与された。

「今は気持ちがいっぱいいっぱいで、これから頑張ります」とか言えませんが、「と興奮気味の本吉監督。最後に審査委員長の中江裕司監督が「3本とも作り手と作品の差がなかった。映画が規格品のように大量生産されがちなのに、一人ひとりの感性の違いこそ映画の突破口になる」と締めくくった。



木村祐一に聞く

この映画祭には第一回から参加してきました。自分が監督した映画を出品したこともあり、その後JIMMOT COMPEITIONの審査員や、芸人が監督を務めるショートフィルムプログラムの監督など、いろいろな面で映画



笑わせる喜び伝えたい

祭に携わってきました。これだけ芸人が関わっている映画祭もなかなかないはずですが、アカデミー賞の授賞式では、俳優のスピーチにおけるジョークのセンスが問われるといいますが、我々はジョークの塊ですから、そこはどの映画祭にも負けないはず。僕としては今後、子供たちに演劇的なものだったり、コントのようなものを体験してもらえ、そのような機会が作れないかと考えています。お客さんを笑わせることの喜びを感じてもらって、それで芸人を目指そうと思ってもらえたらうれしいです。

「群青色の、とおり道」 桐山漣らあいさつ



25日夜、桜坂劇場にて特別招待作品「群青色の、とおり道」の舞台挨拶と上映が行われ、主演の桐山漣と佐々部清監督が登場した。写真。

群馬県太田市を舞台に、ミニシヤンを夢見る青年とその周囲との確執などを描いた青春映画。「夢が形になってい

かない主人公のモヤモヤなど、僕自身すごくよくわかりますし、見てくださる方々の心に響く映画だと思えます」と桐山。役のために1カ月間ギターを猛特訓し、監督に披露したところ、サジの部分で「もういい」と止められた。



外国人記者 クリストファー・オキーフ 毎年、喜びが増える

この映画祭に来るのは今年で3回目ですが、毎年のように喜びが増えています。多彩な映画の上映が楽しみなのはもちろんですが、映画以外のイベントの数々についても感心させられます。たくさんの方々が参加しているのも素晴らしいです。ラフ&ピースの言葉は、この映画祭のスピリッツを象徴しているように思います。食、人々、景色……沖縄は、私の大好きな場所のひとつです。クローズングセレモニー後、ビーチステージの空に花火が打ち上がる時、今年もまたこの映画祭に参加できたことを心から嬉しく思います。

8.6秒バズーカーを直撃

「島ぜんぶでおーきな祭」中、現地からよしもと芸人の動画やニュースをお届けする「デイリーよしもと」。今回は芸歴1年目にして「ラッスゴレイ」で大ブレイク中のお笑いコンビ8.6秒バズーカーが登場した。写真。人生初のレッドカーペットを目前に控え



「デイリーよしもと」配信中
た彼らに感想を尋ねると、豪華ゲストと共に歩けることを喜びながらも、「僕たちなんかレッドカーペットを歩いていいんですかね……」とはまやねんから弱気な発言が。それを受けた田中シングルも「歩いているのか歩いてないのかわからなくなりそう……」と語りながらも、表情は嬉々としていた。彼らの本音に迫った「デイリーよしもと」の詳しい内容はこちらから。http://daily.ynn.jp



よしもと沖縄花月 と、沖縄おもろおばけ屋敷

YOSHIMOTO OKINAWA KAGETSU

割引やポイントが貯まるラフ・アンド・ピース・カードを配布中!

ポイント貯めたら劇場チケットやグッズ、DVDに交換出来るさ~

このラフ・アンド・ピース・カード、**イエー!**

ラフ・アンド・ピース・カードは下記の場所で配布しております。お気軽にお越しください。

- よしもと沖縄花月、沖縄おもろおばけ屋敷 チケットカウンター
- 桜坂劇場内チケットブース (3月25日~3月29日まで)
- 沖縄コンベンションセンター 展示棟内 第7回沖縄国際映画祭 ラフピータウン内 よしもと劇場インフォメーションセンターブース (3月26日~3月29日まで)